

平成 28 年 5 月 28 日(土)
第1回歩く博物館探索会

富士宮市立郷土資料館企画展示「庚申信仰」展関連企画

富丘の庚申塔をめぐる

※ 距離約 5 km 徒歩約 3 時間

スタート ⇒ ① 熊野神社・架橋記念碑・題目塔 ⇒ ② 阿原口の常夜灯 ⇒ ③ 東谷戸の庚申塔 ⇒ ④ 青木下の題目道祖神 ⇒ ⑤ 安立寺 ⇒ ⑥ 先照寺・庚申塔 ⇒ ⑦ 石畑の庚申塔 ⇒ ⑧ 石畑の如意輪観音 ⇒ ⑨ 丘路八幡宮・綱敷天満宮 ⇒ ⑩ 牛ヶ沢の道祖神 ⇒ ⑪ 向畑の石幢 ⇒ ⑫ 下川原の道祖神 ⇒ ⑬ 松原 ⇒ ⑭ 渋沢遺跡 ⇒ ⑮ 風祭川 ⇒ ゴール



【問合せ先】

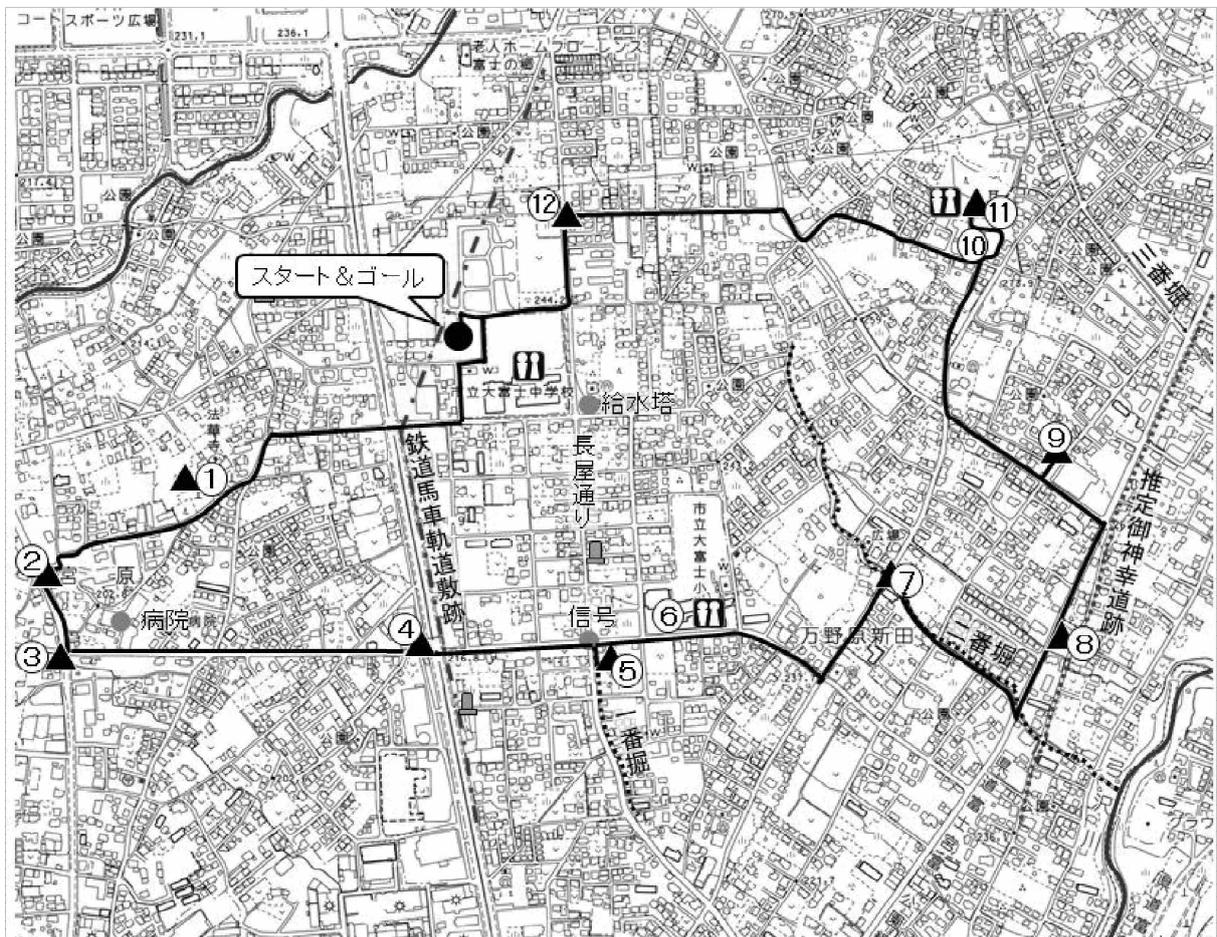
富士宮市教育委員会事務局 教育部 文化課 埋蔵文化財センター
電話 0544-65-5151

平成 28 年 10 月 31 日(月)
第2回歩く博物館探索会

万野原開墾の歴史をめぐる

※ 距離約 5 km 徒歩約 3 時間

大富士交流センター⇒ ① 法華寺 ⇒ ② 題目塔 ⇒ ③ 富士講の碑 ⇒ ④ 馬車軌道跡 ⇒ ⑤ 井戸 ⇒ ⑥ 大富士小学校 ⇒ ⑦ 二番堀 ⇒ ⑧ 万農庵跡 ⇒ ⑨ 文字道祖神 ⇒ ⑩ 甲子 ⇒ ⑪ 琴平神社 ⇒ ⑫ 長屋通りの道祖神 ⇒ ゴール



【問合せ先】

富士宮市教育委員会事務局 教育部 文化課 埋蔵文化財センター
電話 0544-65-5151

万野原開発と入植士族

万野原地区には水がなく、市内でも最も開発が遅れていた地域である。江戸時代末期の文化年間（1804～1818）に万野用水が完成し飲料水が確保されるようになり、ようやく本格的な開発が始まった。

明治元年（1868）旧幕臣（士族）約 250 戸が万野原地区に入植し、開墾を始めた。入植士族の住宅は屋敷地 100 坪、建坪 10 坪 2 合 5 勺（約 34 m²）の草ぶきの建物で、現在「長屋」と呼ばれている地域に建てられた。入植士族には農業用地 2 反歩（約 20 a）が与えられたが、別途 5 反歩（約 50 a）を借り受け、士族授産金を借りて開墾を進めたそうである。4～5 年も経つと開墾は一応成功したが、農作業に慣れない士族では思うように生産量が上がらず、また苛酷な労働に耐えかね離農する者も現れるようになった。万野原地区を捨てて東京などに出て再び戻らない者も多かった。万野原地区にとどまった入植士族は明治 19 年（1886）には 59 戸、大正 8 年（1919）頃には 12～13 戸になってしまった。

① 法華寺

法華寺は、明治初年万野原開墾のため入植した士族（旧幕臣）が入信した寺である。当時は信徒も多かったが、荒野の生活条件や慣れない農作業の苦勞に年々入植者は去り、現在檀家には入植士族子孫は数軒だけだそうである。

また、法華寺の祭礼は、昭和 10 年代までは「宮原の鬼子母神さんの祭り」といわれ大変賑わっていたという。この祭礼は平成元年（1989）に「鬼子母尊神大祭」として再興された。

② 題目塔

明治 14 年（1881）に造立された題目塔で、中央に「南無妙法蓮華經 日蓮御判」、向かって右に「後五百歳中広宣流布」、向かって左に「第六百御遠忌御報恩」とあり、「法華寺富士山三十五世 日志」の名が刻まれる。台座には「信者中」とあり、礎石には十二日講中の人々の名前が刻まれている。

③ 富士講の碑

「不二山御麓一心山窟」と記された石碑で、以前は道の東側にあった。「一心山窟」とは「大日穴」と呼ばれていた山宮の「万野風穴」のことだと考えられ、この石碑は、万野風穴への道標だと考えられる。

この石碑は、文政 2 年（1819）に富士講の人々により造立されたものである。台座に講印（講のマーク）が刻まれており、江戸を中心に活動した「東講」が造立したものとわかる。東講は万野風穴入口にも石造物を残している。

④ 馬車軌道跡

国道 139 号万野歩道橋南側付近には、かつて馬車鉄道「富士軌道」の万野駅があった。現在市内宮原にある城商店は以前は万野駅前に店を構えていた。しかし富士軌道が廃止されたため、昭和 26 年（1951）人通りの多い現在地へ移転したという。昔は馬車鉄道で買物にくる客があり、日用雑貨や食品、灯油、馬具など様々なものを売っていたという。また、鉄道馬車の御者（ぎょしゃ）もよく地下足袋を買っていったという。

⑤ 道祖神

素朴な自然石の道祖神である。万野原地区には7基の道祖神がみられ、その内訳は文字道祖神が4基、自然石道祖神が3基である。富士宮市内で多い双体道祖神はみられない。万野原の開墾に伴い、新しく自然石道祖神や文字道祖神が造立されたと思われる。

⑥ 井戸

水がない万野原地区の開発には水の確保が不可欠だったが、万野用水*は田植え時期などには水不足となり生活用水の確保にも苦勞したという。そのため、天水を利用したり、用水を庭に引き入れ池を作ったりして水不足に備えていた。また、万野原新田の南部では深い井戸を掘り、わずかにしみ出る水を利用していたという。今も庭に井戸や貯水槽が残されているお宅がある。

⑦ 大富士小学校

(1) 万野小学校

万野原新田には富士宮市内最初の学校「静岡藩立万野小学校」があった。『静岡県富士郡誌』(1914)によると、明治2年(1869)入植士族子弟の教育を目的として開校し、平民子弟の入学も許されていたという。万野小学校は明治6年(1873)廃校となった。

(2) 大富士小学校

大富士小学校の前身は「五松舎(ごしょうしゃ)」という。『静岡県富士郡誌』には明治6年万野原新田に「五松舎」があったと記されているが、『大宮町誌』(1930)には明治7年(1874)6月に岳麓洞(がくろくどう)(後の市立大宮小学校)分校として発足したとある。明治11年(1878)五松舎は岳麓洞から分かれ、大岩村を合わせて学区とし大岩に分校を置いたが、明治19年(1886)再び岳麓洞に吸収され廃校となった。明治37年(1904)万野原新田に大宮小学校分教室が置かれ、昭和25年(1950)大宮小学校から独立し大富士小学校となった。

⑧ 二番堀

大雨が降ると、雨水が富士山麓の傾斜地を流れ下り万野原地区の畑が流されたり、大宮町(現市中心部)の市街地にも流れ下って被害をもたらしたりすることがあった。そうした災害を防ぐため、弓沢(ゆみざわ)川に雨水を流す悪水ばけとして、江戸時代に一番堀(小新堀)・二番堀(大新堀)が、明治43年(1910)に三番堀が造られた。

⑨ 万農庵跡

「万農庵」は角田桜岳(かくだ おうがく)が万野原開墾の拠点とした所で、晩年桜岳はここに移り住み開墾を進めた。江戸時代万野原地区は大宮町に属し、大宮町が年貢を納めていたため大きな負担であった。万野原開墾は大宮町にとって大きな課題だったといえる。

万野原開墾は、江戸時代初めの伊奈備前守による万野用水開削から始まったとされるが、これは失敗に終わったといわれている。文化年間(1804~1818)に再び万野用水の開削が進められたが、開墾は進展しなかった。江戸時代末には桜岳が開墾に励み、明治時代になると旧幕臣(士族)が開墾に入った。万野原開墾は、明治時代以降にようやくその成果が上がるようになった。

現在、万農庵跡には桜岳の時代に掘られたという井戸が残されているだけだが、昭和6年(1931)に記録された万農庵の図には門構えのある住居と大きな池が描かれている。湧水のない万野原地区では大変大きな池だと言えるが、これも雨水を蓄えておく工夫だったと考えられる。

角田桜岳（かくだ おうがく）

角田桜岳は、本名を佐野定経、幼名を与三郎、通称を与市という。桜岳は号である。文化12年（1815）大宮町連雀（れんじゃく）（現東町）に生まれた。幼い頃から学問を好み、江戸に出て学んだ後15歳で帰郷、大宮町の町役人（後に組頭）となり郷土の発展に尽くした。桜岳の最も顕著な功績は助郷役免除の嘆願や万野原地域の開発といわれる。

また、幕末には当時としては先進的であった地球儀の作成に関与するなど、その業績は多方面にわたった。桜岳は当時の生活の様子を多方面にわたって記した日記（富士宮市教育委員会刊行『角田桜岳日記』）を残していた。

⑩ 甲子（きのえね）

琴平神社前に「甲子」の石碑があり、「文久三年壬戌歳八月吉日」（文久3年は1863年）・「笹原氏」の銘がある。『角田桜岳日記』文久3年9月3日条に「万野原の琴平神社前の道（金比羅道）を幅2間に拡幅する際、この甲子を移動させた」という記録がある。文久3年当時万野原地区の開発が角田桜岳によって積極的に進められていたことが分かる。

⑪ 琴平神社

琴平神社は、江戸時代初めの慶長年間（1596～1615）に伊奈備前守（いなびぜんのかみ）が万野原開墾を試みた際に讃岐（香川県）の金比羅（こんびら）さんを勧請したのが始まりだといわれるが、開墾が失敗に終わると神社も荒廃してしまった。その後、江戸時代末に再び開墾が始まると、再度金比羅さんを勧請し琴平神社を再興したといわれる。琴平神社は水の神・農業の神として信仰され、水不足に悩む万野原地区の住民にとって大事な神社であった。また、航海の神としても信仰され、かつては祭礼の時に富士市田子の浦の漁師がお参りに来たという。

境内の参道両脇にある窪地は水不足を補う溜め池になっていたといわれる。また、境内には万野用水の石樋が置かれている。万野用水と北山用水の合流点と分水点には水量を量る石樋が設置されていた。これは合流点である内野地区横手沢（よこてざわ）に設置されていたものである。

⑫ 長屋通りの道祖神

明治初年、万野原開墾のために入植した士族の屋敷があった所を「長屋」といい、その中心になる通りは「長屋通り」と呼ばれている。長屋通りには自然石を祀った素朴な道祖神があり、開墾の厳しさを物語っているように思える。自然石の道祖神は、市内では他にも北山地区や人穴地区などの開墾地帯に多く見られる。

(1) 富士宮市文化財保護審議会委員及び富士宮市立郷土資料館運営協議会委員

任 期 平成 27 年 9 月 1 日から平成 29 年 8 月 31 日まで
 根拠法令等 富士宮市文化財保護条例第 45 条第 2 項
 富士宮市立郷土資料館条例第 6 条第 3 項

	氏 名	分 野
会 長	植松 章八	考古・史跡
副会長	北垣 俊明	天然記念物（地質・鉱物）
委 員	芦澤 幹雄	地域史
委 員	小川 只道	重要文化財管理（大石寺）
委 員	川名 義博	重要文化財管理（北山本門寺）
委 員	鈴木 雅史	重要文化財管理（富士山本宮浅間大社）
委 員	高橋 晶子	工芸品（彫刻）
委 員	建部 恭宣	建造物
委 員	松田 香代子	民俗・無形民俗文化財
委 員	山口 裕嗣	重要文化財管理（西山本門寺）
委 員	渡井 正二	民俗・古文書
委 員	渡邊 定元	天然記念物（植物）

(2) 史跡富士山整備委員会委員

	氏 名	役 職 等	分 野
委員長	坂詰 秀一	立正大学名誉教授・元学長	考古学
副委員長	田中 哲雄	元東北芸術工科大学芸術学部歴史遺産学科教授 姫路市日本城郭研究センター名誉館長	造園学 遺跡整備
委 員	建部 恭宣	富士宮市文化財保護審議会委員 富士山世界文化遺産静岡県学術委員会委員	建築学
委 員	谷川 章雄	早稲田大学人間科学学術院長	考古学
委 員	中村 羊一郎	静岡産業大学総合研究所客員研究員 富士山世界文化遺産静岡県学術委員会委員	民俗学
委 員	渡井 正二	富士宮市文化財保護審議会委員 富士山世界文化遺産静岡県学術委員会委員	近世史 民俗学

(3) 名勝及び天然記念物「白糸ノ滝」整備委員会委員

	氏 名	役 職 等	分 野
委 員	天野 光一	日本大学理工学部教授	景観工学
委 員	池邊 このみ	千葉大学園芸学部教授	景観論 環境計画
委 員	佐野 貴司	国立科学博物館地学研究部鉱物科学研究グループ長	地質学 岩石・鉱物・鉱床学
委 員	関 文夫	日本大学理工学部教授	土木工学
委 員	渡井 正二	富士宮市文化財保護審議会委員 富士宮市世界遺産関連学術調査指導員	近世史 民俗学
委 員	渡邊 定元	元東京大学教授 φ 森林環境研究所長	生態 環境

(4) 史跡大鹿窪遺跡整備基本計画策定委員会委員

	氏 名	役 職 等	分 野
委員長	向坂 鋼二	前静岡県考古学会会長	考古学
委 員	遠藤 克実	大鹿窪区区長	地域代表
委 員	北垣 俊明	富士宮市文化財保護審議会副会長 奇石博物館副館長	地質学
委 員	小林 謙一	中央大学文学部教授	考古学
委 員	篠原 和大	静岡大学人文社会科学部教授	考古学

※平成 29 年 3 月 31 日現在（委員・役職名等）

※委員は五十音順

資料 ix 富士宮市内指定文化財等一覧

富士宮市内指定文化財等一覧 〈平成 29 年 3 月 31 日現在〉

国指定文化財 (21 件)

種別	文化財の名称	所在地	所有者(管理者)	指定年月日
重要文化財・建造物	富士山本宮浅間神社本殿	宮町 1-1	富士山本宮浅間大社	明 40. 5. 27
〃 ・ 〃	大石寺五重塔	上条 2057	大石寺	昭 41. 6. 11
〃 ・ 絵画	絹本着色富士曼荼羅図	宮町 1-1	富士山本宮浅間大社	昭 52. 6. 11
〃 ・ 工芸品	太刀(銘南无薬師瑠璃光如来/備前国長船住景光)	〃	〃	明 45. 2. 8
〃 ・ 〃	脇差(銘奉富士本宮源式部丞信国/一期一履応永廿四年二月日)	〃	〃	〃
〃 ・ 〃	太刀(銘吉用)	上条 2057	大石寺	大 12. 3. 28
〃 ・ 書跡典籍	法華経(常子内親王筆)	西山 671	西山本門寺	昭 24. 2. 18
〃 ・ 〃	紺紙金字法華経(開結共)	〃	〃	〃
〃 ・ 〃	貞観政要巻第一(日蓮筆)	北山 4965	北山本門寺	昭 27. 7. 19
〃 ・ 〃	細字金字法華経(藍紙)	〃	〃	昭 29. 3. 20
〃 ・ 古文書	法華證明鈔(日蓮筆)	西山 671	西山本門寺	昭 27. 7. 19
〃 ・ 〃	日蓮自筆遺文	上条 2057	大石寺	昭 42. 6. 15
〃 ・ 〃	日蓮遷化記録(日興筆)	西山 671	西山本門寺	平 5. 1. 20
特別名勝	富士山	二合目以上他	(富士宮市他)	昭 27. 11. 22
特別天然記念物	狩宿の下馬ザクラ	狩宿 98-1	個人(富士宮市)	昭 27. 3. 29
〃	湧玉池	宮町 1-1 他	富士山本宮浅間大社他	〃
史跡	千居遺跡	上条 1818 他	大石寺	昭 50. 6. 26
〃	大鹿窪遺跡	大鹿窪 426-1 他	富士宮市	平 20. 3. 28
〃	富士山	八合目以上他	(富士宮市他)	平 23. 2. 7
名勝・天然記念物	白糸ノ滝	原・上井出	(富士宮市)	昭 11. 9. 3
天然記念物	万野風穴	山宮	(富士宮市)	大 11. 3. 8

県指定文化財 (24 件)

種別	文化財の名称	所在地	所有者(管理者)	指定年月日
建造物	西山本門寺本堂厨子	西山 671	西山本門寺	昭 29. 1. 30
〃	富士山本宮浅間大社社殿	宮町 1-1	富士山本宮浅間大社	〃
〃	大石寺御影堂	上条 2057	大石寺	昭 41. 3. 22
〃	大石寺三門	〃	〃	〃
絵画	富士浅間曼荼羅図	宮町 1-1	富士山本宮浅間大社	昭 56. 10. 23
工芸品	脇差(銘出羽大掾藤原国路)	大中里 396-2	個人	昭 37. 6. 15
〃	青磁蓮弁文大壺	宮町 1-1	富士山本宮浅間大社	昭 52. 3. 18
〃	青磁浮牡丹文香炉	〃	〃	〃
〃	人形手青磁大茶碗	〃	〃	〃
〃	鉄板札紅糸威五枚胴具足	〃	〃	〃
書跡典籍	万暦本一切経	上条 2057	大石寺	昭 52. 3. 18
〃	重須本曾我物語	北山 4965	北山本門寺	昭 53. 10. 20
無形民俗文化財	富士宮囃子	宮町他	富士宮囃子保存会	平 7. 3. 20
天然記念物	村山浅間神社の大スギ	村山 1151	村山浅間神社	昭 31. 5. 24
〃	西山本門寺の大ヒイラギ	西山 671	西山本門寺	〃
〃	北山本門寺のスギ	北山 4965	北山本門寺	昭 32. 5. 13
〃	大晦日五輪のカヤ	内房 5681	個人	昭 40. 3. 19
〃	村山浅間神社のイチョウ	村山 1151	村山浅間神社	昭 43. 7. 2
〃	上条のサクラ	上条 923	個人	〃
〃	富士山芝川溶岩の柱状節理	羽鮒 1539-2	個人	昭 59. 3. 23

種別	文化財の名称	所在地	所有者（管理者）	指定年月日
天然記念物	猪之頭のミツバツツジ	猪之頭 688	個人	昭 60. 11. 29
〃	大晦日のタブノキ	内房 5681	個人	昭 62. 3. 20
〃	芝川のポットホール	下柚野 319 地先	(富士宮市)	平 7. 3. 20
〃	精進川の大カシワ	精進川 1034-2	個人	平 29. 3. 24

市指定文化財（35 件）

種別	文化財の名称	所在地	所有者（管理者）	指定年月日
建造物	平等寺の三門	東町 4-24	平等寺	昭 60. 3. 11
〃	井出家高麗門及び長屋	狩宿 91-1	富士宮市	平 7. 3. 16
〃	妙蓮寺 5 棟	下条 688	妙蓮寺	平 23. 5. 24
〃	上稲子八幡宮の厨子	上稲子 1630	八幡宮	平 25. 6. 20
〃	龍興寺の厨子	内房 3716	龍興寺	〃
〃	芭蕉天神宮本殿	内房 5820	芭蕉天神宮	〃
絵 画	天象の図	村山 1151	村山浅間神社	昭 55. 1. 11
〃	太郎坊権現の図	〃	〃	〃
〃	阿字曼陀羅	〃	〃	〃
〃	伝末代人画像	〃	〃	〃
彫 刻	大日如来坐像（胎蔵界）	村山 1151	村山浅間神社	昭 57. 8. 23
〃	大日如来坐像（金剛界）	〃	〃	〃
〃	大日如来坐像（胎蔵界）	〃	〃	〃
〃	役行者倚像	〃	〃	〃
〃	不動尊像	〃	〃	〃
〃	隨身像	宮町 1-1	富士山本宮浅間大社	平 5. 5. 25
工芸品	伝源義助作大薙刀	宮町 1-1	富士山本宮浅間大社	昭 40. 5. 10
〃	弥陀観音勢至の軸（阿弥陀三尊雲越之来迎図）	上柚野 197-1	延命寺	平 24. 5. 24
書跡典籍	後陽成天皇宸翰	宮町 1-1	富士山本宮浅間大社	昭 40. 5. 10
〃	外国語（英・蘭）辞書類一括	中央町 11-2	個人	昭 63. 4. 15
古文書	袖日記	大宮町 7-16	個人	昭 60. 3. 11
考古資料	三連甕形土器	黒田 1373-13	個人	昭 55. 1. 11
〃	安養寺の土偶	杉田 489	安養寺	昭 57. 8. 23
〃	駿州富士郡二股村石経塚	栗倉 1051-1	個人	昭 63. 4. 15
無形民俗文化財	火伏念仏	内野	火伏念仏保存会	平 11. 1. 26
〃	富士山本宮浅間大社流鏑馬	宮町	富士山本宮浅間大社流鏑馬保存会	平 18. 9. 8
史 跡	大室古墳	小泉 1467-1	(上小泉八幡宮)	昭 60. 3. 11
〃	中野梅市建立の句碑	黒田 36	本光寺	〃
〃	虚空蔵社古墳	西小泉町 59-4. 5	個人	平 5. 5. 25
天然記念物	大宮縄状溶岩	元城町 32	富士宮市	昭 44. 4. 1
〃	フジキクザクラ	上条 2057	大石寺	昭 57. 8. 23
〃	中央町のカヤ（カヤの木）	中央町 11-2	個人	〃
〃	猫沢のカシワ	猫沢 98-2	個人	平 26. 4. 30
〃	西山本門寺のシダレマキ	西山 671	西山本門寺	〃
〃	寛妙寺のイヌマキ	内房 2642	(橋上町内会)	〃

国登録有形文化財（1 件）

種別	文化財の名称	所在地	所有者（管理者）	登録年月日
建造物	吉澤家住宅煉瓦蔵	宮町 947-1	個人	平 27. 3. 26

富士宮市文化財年報 第7号

平成30年3月28日

編集 富士宮市教育委員会

発行 富士宮市教育委員会

静岡県富士宮市弓沢町150番地

電話 (0544) 22-1111(代)

印刷 株式会社きうちいんさつ